



富屋地区
シンボルマーク

みんなで 仲良くやっぺ ふるさと富屋

101号

2022 (令和4年)
3月発行
広報とみや

25年の時を経て……タイムカプセルを開封！



富屋地区では、平成8年11月10日、宇都宮市制100周年を記念し当時の地域の皆様の協力により「タイムカプセル」を埋設しました。そして、25年の時を経た令和3年11月10日、40名が参加して開封式を開催しました。開封に先立ち、入江林産様のご協力をいただき、掘り出し作業を行いました。重機を使っての作業は予想を越える大作業で、中に入っているものは無事だろうかと見守る人たちからは期待と不安の声が上がっていました。掘り進めるとカプセルが姿を見せ、ふたの上には「無事帰る」の意味を込めた石のカエルが置かれていました。

埋設した時刻と同じ午前10時10分、出席者全員のカウントダウンにより、当時の実行委員会会長の池田英司様、実行委員会会計の脇島子之松様、元富屋公民館副館長中川博夫様、実行委員会委員の天野睦子様タイムカプセルを開封しました。カプセルの中には炭が2俵分入っていました。炭は余分な水分を吸着し湿気を調整すると言われます。そのお陰でしょうかカプセルの中には水一滴も入っておらず、中に入れた物は当時のまま取り出されました。当時の人々の知恵に感動の声が上がりました。

タイムカプセルには、各種団体の手紙やメッセージ、平成8年度の富屋小学校の児童、山王幼稚園、徳次郎保育園の園児の作品が入っており、参加者は25年前にタイムスリップして思い出話を花を咲かせていました。

当時の小学生は富屋地区市民センターへ、当時の園児は卒園された幼稚園・保育園へ3月31日までにお問い合わせください。



編み物

先生との出会いから



大好きでやりたいと思っていた編み物を始めたのが40年ほど前。孫のお守りをしながら自家用車で教室に通い始めました。教室での先生との出会いがあったからこそ、今も楽しく編み物を続けられています。教室では、白い毛糸を取り寄せ、玉ねぎや菊芋などで染め、作品を仕上げたこともありました。

作品の多くは、セーターですが、マフラーや座布団などの小物も編んでいます。余った毛糸をつないで作るセーターも味があって愛着があります。今は、月に2回、富屋地区市民センターで編み物サークルに参加し、先生と仲間と共に楽しくベストを編んでいます。
(下町自治会 齋藤 光子)

「とみやふるさと散策マップ」を持って歩きませんか！

富屋地区まちづくり連絡協議会作成の「とみやふるさと散策マップ」が完成し、この度、地区内各世帯に配布されました。このマップには、地区内の文化財・史跡を巡る4つのモデルコースと、各コースで立ち寄る文化財・史跡の解説等が掲載されています。地域の皆さん、ぜひマップ片手に富屋の豊かな自然と歴史や文化に触れながら、地区内を散策してください。なお、富屋地区を散策する際にマップを必要とする方には、地区内外を問わず富屋地区市民センターで配布しますのでご利用ください。

◆4つのモデルコース◆

- Aコース〈徳次郎宿（上町・中町・下町）の魅力満喫コース
（約7.4km 2時間）〉
 - Bコース〈日本文化遺産西根石蔵群と中世の古道コース
（約9.5km 3時間）〉
 - Cコース〈下横倉城跡と御岳山を巡る山登り満載コース
（約9.1km 3時間）〉
 - Dコース〈上横倉の獅子舞と大網の天棚のルーツを巡るコース
（約9km 2時間30分）〉
- （各コースで巡る文化財や史跡等についてはマップをご覧ください。）



富屋に学ぶ子どもたち

○山王認定子ども園「コロナ禍でも頑張っています」

園長 中里 光江

令和3年度もコロナが収まる気配がなく、園児や保護者の皆様にもマスクの着用・手指消毒等の感染対策にご協力いただき、換気や園内の消毒を徹底しての保育となりました。

子ども達は毎日元気に登園し、全力で遊んでいます。その姿に大人が力をもらう毎日です。

今年度は、昨年度に実施できなかった行事を、コロナ禍においてどのように実施するか検討を重ね、できる限り行事を行いました。夕方から夜にかけて行っていた夏祭りを昼間に、運動会や発表会（お遊戯会）は来場者を制限して学年ごとに、年長組のお別れ遠足は県内で。規模を縮小しての実施となりましたが、行事に向かう準備過程での期待感、本番での高揚感、行事後の達成感や満足感……子ども達の素敵な表情を見ることができました。

来年度はコロナが落ち着き、地域の皆様にもマーチングや作品をみていただけることを願っています。



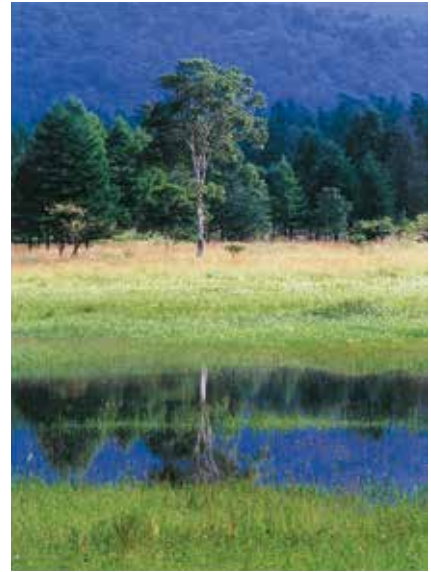
亀山さん、写真集『奥日光 小田代ヶ原』を出版



下町自治会の亀山濱之助さんは、小田代ヶ原の静寂に包まれた繊細な美しさに心打たれ、30年間にわたり撮影してきました。その集大成として、春夏秋冬の小田代ヶ原の風景90枚を収録した写真集を昨年9月に下野新聞社から出版しました。亀山さんは小田代ヶ

原に通う中で、自然がほんの一瞬だけ見せてくれる美しい風景に出会い、涙がこぼれ、シャッターを押す手が震えたこともあったそうです。その感動を与えてくれた自然の素晴らしさや偉大さを写真で伝えたいと思い撮り続けてきたと話されていました。市民センターの郷土の本のコーナーに写真集を寄贈していただきましたので、皆さんも写真集

を通して、小田代ヶ原の自然が一瞬だけ見せる美しい風景にぜひ出会ってください。



初夏の風



雨台風去る



11月5日の朝

ふるさと再発見 ⑧1

富屋公民館



昭和24年社会教育法に基づき、戦前からあった日輪舎に、富屋公民館が設置されました。開館当初は住民を対象に、民主化に基づく話し合いや時間の励行、冠婚葬祭の簡素化や、台所改善などの新生活運動が進められました。また、若妻会の結成や青年団、婦人会の活動が進められ、町会単位に公民館分館が設けられました（公民館の名称はその名残）。昭和30年代には家庭教育学級や青年学級、婦人学級などの講座が開講し、多くの住民が参加しました。そ

の後、高齢者学級や少年ふるさと教室が加わり、各種サークル活動が活発となりました。また公民館に青年団や婦人会、体育協会などの団体が入りし、秋にはふるさとまつりが行われるようになりました。平成9年富屋地区市民センター開所に伴い、公民館は市民センター内に移り事業を継続しましたが、平成14年3月に組織が廃止され、53年続いた歴史に幕を閉じました。現在、生涯学習センターが業務を引き継いでいます。（文化財調査員 池田 貞夫）

高く上げれ 手作り凧

第54回富屋地区たこあげ大会が1月10日(月)、ろまんちっく村のにぎわい広場で開催されました。少し風が足りなかったものの、幼児・小学生22名がたこを空高く上げようと広場を元気に走り回りました。審査が終わっても自分で作ったたこをずっとあげている小学生がいて、楽しんでいる姿が印象的でした。大人の部では、富屋小学校の村岡校長先生の「黄ぶな」をデザインした凧をはじめ、どのたこも今年の想いや願いが表現されていました。

今年はコロナ禍の中にあるため、青少年育成会が作成した「たこ作り」の動画をパソコンやスマホ、タブレット等で見ながら各家庭でたこを作成し、思い思いに絵付けをしての参加になりました。大会直前には下野宮凧の会の方々が子ども達の作ったたこの出来具合を見てくださいました。



ご成人おめでとう！～晃陽中学校区成人式～

晃陽中学校区成人式が、令和3年11月14日と令和4年1月9日に開催されました。

11月14日の成人式は、令和3年1月に開催予定の成人式が、新型コロナウイルス感染症の関係から延期され、開催されたものです。

会場のホテルニューイタヤには、晃陽中学校・富屋特別支援学校の卒業生が参加、新型コロナウイルス感染症の関係で、式典の一部変更や地域交流事業内容も制限されましたが、級友との再会で、楽しいひと時を過ごしていました。



令和3年11月11日



令和4年1月9日



富屋地区のデータ

(令和4年2月末現在)
世帯数 1,586世帯
総人口 3,465人
男性 1,658人
女性 1,807人

今後の主な事業計画

4月9日(土) 連合自治会総会
まちづくり連絡協議会総会
防災会総会
社会福祉協議会総会
福祉協力員連絡会
青少年育成会総会
体育協会総会

編集・発行

富屋地区まちづくり連絡協議会
〒321-2116
宇都宮市徳次郎町80番地2
(富屋地区市民センター内)
☎028-665-0002, 1663